

今日の英米演劇 I

今日の英米演劇 第一卷 (全五卷)

定価 八八〇円

一九六八年九月一日印刷
一九六八年九月一〇日発行

訳者 ①

菅原 小田 喜志 哲雄 志卓
すがはら おだ きし てい おおし

発行者

草野 貞之

印刷者

田中 昭三

発行所

株式会社 白水社

東京都千代田区神田小川町三の二四

電話東京(291)七八二(代)

振替 東京三三二二八

郵便番号一〇一

理想社印刷・松岳社製本

今日の英米演劇

I

今日の英米演劇

I

オニール／日陰
ラ 美しい青い海
ウ この夏、突然に
オ 二つとり

白水社

目次

日陰者に照る月	7
深い青い海	119
この夏、突然に	195
にわとり	245
解説（菅原卓）	327

日陰者に照る月

四幕

ユージーン・オニール 作／喜志哲雄 訳

Eugene O'Neill

A MOON FOR THE MISBEGOTTEN

1952

人物

ジョージ・ホーガン

フィル・ホーガン 彼女の父

マイク・ホーガン 彼女の弟

ジェームズ・ティローン・ジュニア

T・ステッドマン・ハーダー

場面

第一幕 百姓家。正午ごろ。一九二三年九月初め。

第二幕 同じ場所、ただし居間の内部が見えるように

なっている——その晩の十一時。

第三幕 第一幕と同じ。第三幕は第二幕にすぐ続く。

第四幕 同じ場所——翌日の夜明け。

劇の舞台

劇の場面はコネティカット州にある小作農フィル・ホーガンの家、時は一九二三年九月初めのある日の正午ごろから、翌日の日の出の間である。

この家は、控えめにいっても、ニュー・イングランドの建築の好例とはいえない。このあたりには、周囲

の情景とあまりみごとに一致しているので、大地に根をおろして、風景の一部となっているといってもおかしくないような家があるが、この家はそうではない。

この家は他の場所から今の場所へ移してこられたのであって、一見してそれとわかる。家は古くて箱のような、羽目板を張ったもので、屋根も板ぶき、それに煉瓦の煙突がついている。木のブロックを地上二フィートほどの高さに積み上げて、その上に家がある。家の舞台正面の側には、一階に二つ、二階に一つの窓がある。これらの窓には、よろい戸もカーテンも日よけもついていない。どの窓をとってみても、ガラスが少なくとも一枚はなくなっており、そのあとにはボール紙がとりつけてある。もとはこの家は不快な黄色に塗られ、外部の装飾の部分は茶色になっていたのだった。だが今では、壁は黒くよごれ、風雨にさらされて、灰色になっており、ところどころに薄いレモン色の筋や斑点が残っている。家の上手側の角を曲がってすぐのところ、入口のドアに通ずる階段がある。

この家をさらに見苦しくしているのは、下手側にひと部屋、一階建ての部分がつぎ足してあることである。およそ長さ十二フィート、高さ六フィートのこの部屋は、ジョージ・ホーガンの寝室になっているが、明

第一幕

らかに自家製である。その壁や傾いている屋根は、色があせて濃い灰色になってしまったタール紙でおおわれている。この部分が家に続いているところのすぐそばに、ドアが一つあり、そこから、ペンキの塗ってない三段の階段が地面に通じている。ドアの下手側には小さな窓がある。

この階段のところから、小道がのびて、下手後方にある古い梨の木をめぐり、乾草にするために草を刈り取ったあとの畑を通して、小さな林へと続いている。同じ小道は上手へのびて、舗装されていない道路に合流している。この道路は、上手の舞台外約百ヤードのところにあるこの地方の幹線道路から、この家の入口のドアまで通じているのである。そしてそこから、もとの方向へもどって、でこぼこのりんご畑の間を通り、納屋に達する。家のすぐそば、ジョージの寝室に近い窓の下に、上が平らになった大きな石がある。

場面はすでに述べたとおり。正午の少し前。晴れた暑い日である。

ジョージの寝室のドアが開き、頭をぶつけないように身をかがめながら、彼女が階段の上へ出て来る。

ジョージは二十八歳である。女にしてはあまりに大きいので、ほとんどかたわに見える——身長は靴を脱いで五フィート十一インチ、体重は約百八十ポンドである。彼女の肩はなで肩だががっしりしており、大きくて堅い乳おさのついた胸は幅が広く、腰は太く、それでも尻や太ももにくらべればほっそりして見える。両腕は長くてまっすぐであり、筋肉は見えないけれども、非常に力強い。両脚についても同じことがいえる。

彼女はよほど強い男以外ならどんな人間にくらべても力が強く、普通の男ふたり分の力仕事ができる。だが彼女には男っぽいところはなく、どこからどこまでも女性的である。

彼女の顔を見ると、アイルランドの血が流れてい

ることがありありとわかる——長い上唇、小さい鼻、濃く黒い眉、馬のたてがみのように太くて堅い黒髪、そばかす、日焼けした白い肌、張り出した頬骨、頑丈なあご、といったふうだ。美人というのではないが、大きな濃い青の目は、この顔をどこことなく美しく見せており、笑うときれいにそろった白い歯が見えるのは、この顔の魅力になっている。

彼女はそまつな青い綿の袖なしの服を着ている。はだしで、かかとは土によごれ、皮のように堅くなっている。

彼女は階段を降り、上手へ歩いて家の角まで行き、そこから納屋のほうをうかがう。それからすばやく家の下手側へ行き、ふりかえる。

ジョージー ああ、やれやれ。(彼女は階段のほうへもどる。そのとき、彼女の弟のマイクが下手後方から急いで登場する)

マイク・ホーガンは二十歳で、姉よりも四インチほど背が低い。がっしりした身体をしてはいるのだが、姉と並ぶとほとんどちっぽけにしか見えない。彼の顔はアイルランド人によくある顔で、表情は、むっつりしているか、抜け目なく知恵が働いているか、あるいは、とりすまして独善的であ

るか、といったことになる。彼は、自分があらゆる戒律を守る善良なカトリック教徒であり、したがって、新教徒だの悪いカトリック教徒だのといった呪われた罪人たちのいる世界にあって、全能の神から選ばれた者のひとりなのだということを、かたときも忘れない。要するにマイクは、ニュー・イングランドのアイルランド系のカトリック的ピューリタンのBクラスに属し、こういう男にそばにいられると、はなはだしくいららるのである。

マイクはよごれた胸当てズボンと汗のしみた茶色のシャツをつけている。彼は乾草用の三つまたをもっている。

ジョージー 困るじゃないか、ぐずぐずしてちゃ。言っただろ、十一時半だよって。

マイク これで精いっぱいさ。もっと早く抜け出してこっちへ来ようと思ったって、おやじが納屋の角からのぞいてるんだもの、ちよつとでも休んだりしたら、いつもの手で、たちまちつかまっちゃうよ。おやじが豚のオりのほうへ行くまで、待ってるほしかたがなかったのさ。(意地悪くつけ加える) おやじはあそこにいるのが分相応なんだ、老いぼれの豚め！

ジョージーは驚くべき速さで右腕をふり、彼のあごの一方に大きな手を命中させる。彼女のほうでは軽く平手打ちを食わせるつもりだったのだが、彼は頭をのけぞらせてよろめき、三つまたを落として、ぺこぺこしながら哀願する。

ぶたないでくれよ、ジョージー！　ね、お願いだからさ！

ジョージー（穏やかに）じゃ、父^{ちち}さんのことをとやかく言うんじゃないよ。わたしにとっても父親だからね。あんたはきらいでも、わたしは父さんが好きなんだ。

マイク（彼女の手の届かぬところから——むっつりと）
似た者同士だからな、ろくでなし同士だ。

ジョージー（あいそよく）結構じゃないか。それから、わたしはあんたをおってなんかいないよ。ほんとにぶつてたら、あんた、今ごろは地べたにのびてるどころだよ。ちよっとなでてあんたの目をさましたげようと思ったのさ、あんたが頭を使うようにね。逃げて行くところを父さんにつかまったら、半殺しの目にあっちまうよ。さあ、荷物をとっておいで。わたしが詰めといたからさ。わたしの部屋のドアの内側に、あんたの上着をかぶせておいてあるよ。さあ、早くして。父さんはわたしが見張ってるよ。

彼女はすばやく家の上手側の角のところへ行き、様子をうかがう。彼は階段をのぼって彼女の部屋へ入り、古い上着とふくらんだ安物のかばんを持ってもどって来る。彼女がもどって来る。

大丈夫、父さん来やしないよ。

マイクはかばんを地面に置き、上着を着る。

いるものはみんな詰めといたからさ。駅の便所か汽車の中で、一張羅^{いっそうら}に着替えたらいいよ。それから忘れずに顔を洗うんだよ。あんただって兄さんのトマスに出迎えてもらったとき、せいぜいパリッとしていたいだろ。（おもしろがって嘲^{あざわら}るような口調になる）トマスったら、すっかり出世しちゃって、ブリッジポート警察の巡査部長さまだなんてね。きつとあんたも警察に入れてくれるよ。ちよっどいいね、あんたには。ほんとにあんたが飲んだくれを留置場へ引っ張って行きながら、禁酒の説教をおつてるところが目に見えるよ。もしトマスが仕事を世話してくれなかったら、もうひとりの兄さんのジョンのところへ行ったらいい。メリディンで酒場をやってるからね。きつと仕事を教えてくれるよ。あんたならさぞりっぱなものになるだろうね。売り上げをごまかすじやなし、自分では一滴も飲むじやなし、それどころか、お客に向かつて、もうそれまで、早く家へお帰りなんて言

うだろうからね、お客のほうじゃ、やっという気分にな
りかけてるのにさ。(彼女は残念そうにため息をつく)

ああ、マイク、あんたって人は神父さんにかわいがられ
る生まれつきだよ、どうにもしかたがないね。

マイク いいともさー いくらでもからかうがいいや、お
れはまじめにやりたいんだから。

ジョー ジー まじめどころじゃないよ。あんたのはまじめ
の前に、そがつくんだ。

マイク ふん、そういうことは、いくら言ってもほしくて
も、だれも言ってくれないよな——(彼は言いかけてや
める。それは少し恥ずかしくなったからでもあるが、言
い終わるのがこわいというのがおもな理由である)

ジョー ジー (おもしろがって) わたしにはって言うのか
い？ そのとおり、言えもしないし、言いもしないさ。

(彼女は嘲るように微笑する) そりゃあね、マイク、あ
んたがつかったのはわかってるよ、姉さんが近所の鼻
つまみだなんてね。

マイク 姉さんが言いだしたんだよ、おれじゃないよ。別
れ際にいやな思いをしたくないんだよ。おれ、これから
も姉さんのためにお祈りをするからね。

ジョー ジー (あらあらしく) ふん！ ばかばかしい、あ
んなのお祈りなんて！

マイク (ぎこちなく) おれ、もう出かけるよ。

彼はかばんを取り上げる。

ジョー ジー (態度をやわらげて) お待ち。(彼に近づく)

わたしが乱暴なことを言っても気にするんじゃないよ。

あんたが行っちまうのはいやだけどね、こうするのがい
ちばんいいのさ、あんたには。だから手伝ってあげてるん
じゃないか、トマスやジョンの時と同じようにさ。あん
ただって、トマスやジョンと同じように、父さんに向こ
うにまわしてやり合うのは無理だよ。それにここにいた
んじゃ、いつまでたってもきき使われるばかりだしね。

さあ、あんたが世の中へ出たらうまう行くように祈って
るよ。あんたならきつと出世する——どうか神さまがお
守りくださるように。(彼女の声はやわらいでおり、彼
女はまばたきして涙をおさえる。彼女は彼に接吻する

——それから洋服のポケットの中をさぐって、一ドル札
の小さな束を取り出し、彼の手に握らせる) 汽車賃の足
しだよ。父さんの小さな緑の袋から盗ったんだけどね、
ばれたらさぞ荒れることだろうよ！ でもいいのさ、わ
たしがうまうあしらうから。

マイク (うらやましそうに) 姉さんならね。姉さんだけ
さ、おやじがあしらえるのは。(一瞬感謝の気持ちに動
かされて) ありがとう、ジョー ジー。姉さんってやさし

いんだね。(それからもっともらしく) でもいやだな、盗んだ金をもらうなんて。

ジョージー あんたったら、これ以上ばかなことを言うんじゃないの。気がとがめるんなら、もらえるはずの手当をちよっぴりちよっぴり欲しいんだと思いなさい。

マイク そうだ。そう言われると、たしかにこれはおれのもんだ。(彼は金をポケットに突っ込む)

ジョージー さあ、もう行くんだよ、汽車におくれちゃうよ。それから、汽車はブリッジポートで降りるんだよ、いいね。トマスとジョンによろしく言っておくれ。いや、いいいいいよ。ふたりとも何年も手紙一本よこしてやしない。わたしの代わりにふたりのケツを蹴とばしておやり。

マイク 女のくせになんて口のききようだい。姉さんのことばづかいのきたないことしたら、おやじといい勝負だ。

ジョージー (いらいらして) 説教はおよし、がまんするんだよ、でないといつまでたっても出かけられないよ。

マイクほんとにおやじに負けにくいらいひどいもんだな。こんなふうになっちゃったのも、おやじのせいなんだ。だっていつも人をだますことばかり考えていてさ、よぼよぼの馬や病気の牛や豚を、手当して一日か二日は

元氣に見えるようにして売りつけたりさ。まるで泥棒同然だ。そいつを姉さんは手伝うんだからな。

ジョージー そうとも。ずいぶんおもしろいよ。

マイク 姉さんは結婚しなきゃいけないんだ、自分の家庭をもつてこんな掘っ建て小屋から出ていくのさ。今みたいな恥ずかしい男出入りをよさなきゃいけないんだ。(彼は道徳的な満足をいくらか感じながらつけ加える) もっともまともな男で今さら姉さんと結婚しようなんてのはなかなかないだろうけどな。

ジョージー まともな男なんて願ひ下げだよ、あいにくだね。第一おもしろくないよ。みんなあんたみたいな石部金吉だからね。それにわたしは、いくら相手がよくたって、たったひとりの男と結婚してしまわれるのはごめんだよ。

マイク (ずるそうに流し目を使って) ジム・テイローンでもだめだって言うんだね？ (彼女は彼を見つめる) しぼりつけられる相手がお金ならいいんじゃないのかい。あのジムは、お母さんの遺産のことがはっきりしたら金持ちになるはずだがね。(皮肉に) そのことは考えてみなかったって言うんだらう。ごまかしちゃいけないよ！ ジムに色目を使ってるのはちゃんと見てるんだから。

ジョージー（蔑むように）するとわたしはジムの誘惑し
て結婚を申し込ませる氣でいるって言うんだね。

マイク そりや変な話だよ。だけど姉さん、ほんとう
は、あの男がぐでんぐでんに酔っぱらってひとりでいる
ところをつかまえたなら、などと思ってる——まあいい
や、せいぜいでたらめを言っておれをこまかすんだな。
おれはちゃんとにらんでるんだ、姉さん、あの男をひっ
かける計略をなにか考えてるんだろう、おやじがそうし
ろってけしかけたんだろう。きつとおやじの腹じゃ、姉
さんがジムといっしょにいる現場をおさえ、証人も用意
し、猟銃でジムをおどしつけたら——

ジョージー（腹だちをおさえて）あんたってずいぶんい
い考えが浮かぶのね。わたしがあんたなら、これ以上知
恵を絞ったりしないわ。

マイク ふん、おやじならどんな小細工だってやりかねな
いさ。それに姉さんだってね、残念ながら。姉さんは自
分の身持ちなんかどうだっていい、どんな男と出かけよ
うとかまわないうって氣でいるんだものな。これまでずつ
と恥知らずな暮らしをしてきながら、身持ちの悪いのを
自慢してるんだ。嘘だとは言えないだろう。

ジョージー ああ、言えないよ。（それから無気味な調子
で）あんた、それくらいにしないといたほうがいいよ。わた

しが腹がたつてもがまんしてるのはね、これがお別れだ
と思うからだよ。（彼女は立ち上がる）でもがまんにも
ほどつてもものがあるよ。

マイク（あわてて）待ってくれ、おれの話を最後まで聞
いたら怒ることはないんだ。おれはね、せめて今度は姉
さんの計略がうまくいってほしいって、言うつもりだつ
たのさ。おれはジム・ティローンってやつのがうざうざし
いとこがきらいなんだ。ラテン語の文句を引用した
り、カトリックの大学にいたからってお高くとまった
り、おれなんかには鼻をひっかけるのももったいないつ
て顔をしやがったりさ。ところが実際はどうだい、ただ
の飲んだくれのろくでなしじゃないか。生まれてこのか
た働いたことといえば、親の七光りで仕事をまわしても
らえたところに、役者をやっただけじゃないか。（うらめ
しげに）頼むよ、姉さん、うまくあいつをおさえ込ん
で、文無しになるまで絞り取ってくれよな！

ジョージー（彼に向かつておどしつけるように迫って）
この上しやべってみな——（それから蔑むように）ほん
とに口がへらないったらありやしない。ほんとうならこ
のまましやべらせておいたっていいんだよ。父さんが
やって来て、あんたをめちゃめちゃにおちのめしてくれ
るからね。でも今はそうはしてられないんだ。早くあん

たに出ていってもらわなきゃね。(あらあらしく) さあ、出ていけたら！ 父さんが一日じゅう豚の世話をしていると、まぬけだよ、あんたは、しゃべってばかりいて。(彼女は上手へ行き、家の角^{かど}からうかがって見て、ほんとうに驚いて) あそこにいる、納屋のほうへやって来る。

マイクはおびえてかばんをつかむ。彼は足音を忍ばせてすばやく角を曲がり、小道を通って下手後方の林へ消える。彼女は父親をずっと見張っている。それで、マイクが行ってしまったのに気づかない。

草原のほうを見るよ。あんたが仕事をしていないのに気がついた。そら、あっちへ走って行く。今度はこっちへ来る番だ。早く、思いきり走るんだよ！ (彼女はふり向いて彼がいらないのに気づく——蔑むように) なんだ、こんなことだったの。今ごろは一マイルも行っちゃまってるだろうね、あんたの足はまるで兎^{うさぎ}だものね！

(彼女はもう一度家の角からのぞきこむ——感心しておもしろがりながら) まあ、かわいそうな父さんが悪態をついてることったら。太短い脚でびよんぴよんはねて、まるで子羊みたい——それに蜂^{はち}の巣をつついたように怒ってる！ (彼女は笑い、林へ通じる小道をながめやするためにもどって来る) さあ、マイク、あんたともこれ

きりだよ、ちょうどいいやつかい払いさ。あんたが子供のころにはわたしは母親代わりにめんどろを見てあげたけど、お金を盗んだのは、あのころのよしみだよ、今のあんたのためじゃないよ。(これで彼のことは終わりである。彼女はため息をつく) さあ、もう父さんがこっちへ来るころだ。用意をしてなくちゃ。(彼女は寢室のドアから中へ手を入れて、のこぎりで端を切ったほうきの柄を取り出す) こんなものいらないんだけど、父さんの顔をたてておこう。(彼女は右手の近くに、ほうきの柄を階段にもたせかけて置き、自分は階段に腰かける)

一瞬後、彼女の父親のフィル・ホーガンが、上手後方から走って登場し、家の角あたりに襲いかかる。彼は両腕を上下に振り、両方のこぶしを握りしめ、顔には腹だちのあまり闘志があふれている。

ホーガンは五十五歳、身長はおよそ五フィート六インチである。太い首、肉づきのよいなで肩、樽のような胴体、太短い脚、大きな足といったからだをしている。両腕は短くて筋肉が発達しており、手は大きくて毛深い。頭は丸く、薄茶色の髪が薄くなりかけている。顔は肉づきがよく、獅子鼻、長い上唇、大きな口、小さな青い目、それに